

専業農家の経営展開と諸類型

— 佐賀平坦水田地帯の場合 —

高尾雅晴 (佐賀県農業試験場)

Masaharu TAKAO : The Managerial Development of the Full-time Farm Households and the Classifications

— The Case of the Paddyzone in Saga Prefecture —

1. はじめに

佐賀平坦水田地帯は東北と並ぶ稲作の高収量地帯であり、また、戦前からの自小作前進運動のなかで、1haから2ha前後の稲作専業農家群が数多く形成されてきた地帯である。しかし、1970年代の米過剰以降、これらの稲作専業農家群の経営分化が進んでいる。

本稿では、佐賀平坦水田地帯における専業的農家の存在形態と経営対応の過程を個別農家の事例をもとに検討してみたい。

2. 専業的農家の存在形態

佐賀平坦水田地帯における専業的農家の代表的な存在形態としては、米麦+施設園芸農家と大規模米麦農家の2つに大別できる。

佐賀平坦水田地帯の典型的な地域のひとつである三日月町の2ha以上層農家286戸について、農家世帯員の就業状態をみると、経営主夫婦を中心に1~2世代が農業専従である農家が65.7%、経営主夫婦のいずれかが兼業である農家が19.6%、経営主夫婦とも兼業である農家が14.7%である。

さらに専業的農家について、その経営形態をみると、米麦農家41.0%、施設園芸農家38.8%、米麦に果樹あるいは畜産を組合せた農家20.2%であり、施設園芸農家が米麦農家に比肩するまでになってきている。また、経営規模別に施設園芸農家率をみると、4ha以上層を別として、経営規模が大きい階層ほど施設園芸を導入する傾向が強いという階層性が見られる。さらに家族協業体制からみても、米麦専業的農家の2世代夫婦農業専従が18.2%であるのに対し、施設園芸農家では39.7%となっている点に特徴がある。

3. 家族協業体制の再編と施設園芸の導入

佐賀平坦水田地帯の専業的農家の大多数は経営規模の外延的拡大の壁に直面している。そして、その対応として施設園芸の導入を行い、新しい活路を見出そうとしている。しかし、施設園芸の導入には、経営内に労働力を確保すること、そして、さらに家族協業体制の再編を行うことが大きな前提となっている。

経営主夫婦の1世代が農業専従となって米麦作と施設イチゴ経営を行っている農家では、米麦作の機械作業においては夫婦2人オペレーター制を確立している。しかし、麦作業とイチゴ出荷作業が競合する期間には夫婦2人の労働力では対応できず、近所の婦人3人を雇用している。そしてこの期間においても、この農家では麦作業は経営主が担当し、イチゴ出荷作業の雇用婦人の労務管理は妻が担当するというように夫婦の役割分担を明確にしている。

また、2世代専従で米麦作と施設カーネーション経営を行っているY農家は世代間で部門担当を行い、さらに米麦作の収穫時には機械利用組合が労働力の補完組織として役立っている。

この2つの事例からわかるように、施設園芸農家では家族協業体制の再編を行って施設園芸を導入している。

4. むすび

佐賀平坦水田地帯の上層農家は、米過剰以降、土地問題（農地市場の閉塞性、自作地購入市場における代替地購入農家の出現と高地価の形成、借地市場における農地取得競争の激化と高地代の形成）を迂回して、家族協業体制の再編を行い、施設園芸を導入して、新しい活路を見出そうとしている。しかし、家族員の兼業化が進行している状況のなかでは、施設園芸を導入できる農家は限定されざるを得ない。また、施設園芸を導入した農家においては、家族員の生活の犠牲と過重労働、施設園芸作物の販売戦略、すなわち価格問題といった新たな問題が生じてきている。

さらに、上層農家における施設園芸の導入は、米麦作の組織化に新たな問題を生じさせている。従来、これらの上層農家は集落ぐるみの機械利用組合のオペレーターとして重要な役割を果たしてきた。しかし、施設園芸の導入によって、オペレーターとしての出役が困難になってきており、従来集落ぐるみで構成されてきた地域農業組織の再編が必要となってきている。

附表 専業的農家の経営概況

農家名		I(三日月町)	S(芦刈町)	H(神埼町)	Y(東与賀町)
経営の特徴		自作地拡大・ 稲麦専作型	稲麦借地・ 施設イチゴ拡大	施設イチゴ+ 稲麦組織型	自作地拡大・施設 カーネーション
農業生産	水稲・麦*	380a・490a	300a・1100a	309a・350a	400a・532a
	大豆・施設	90a	- 1060坪	- 670坪	128a・300坪
	作業受託	20a	221~458a	-	-
経営規模	経営耕地	470a	457a	369a(5a)	504a
	うち借地	3a	227a	156a	-
	期間借地	20a	588a	25a	120a
家族労働力		経営主夫婦+ 後継者	経営主夫婦+ 母	経営主夫婦	経営主夫婦+ 後継者
米麦生産組織		-	-	F六丁機械利用組合	中村機械利用組合
主要農機具	トラクター	28ps	15,28,55ps	25ps	30ps
	田植機	乗用6条植	乗用6条植		
	コンバイン	4条刈	4条刈	ミニライセンサーを中心 に機械利用組合	収穫・調製は機械 利用組合
	乾燥・調製	乾燥・穂摺	乾燥・穂摺		

注) *麦作はS農家の100a(小麦)を除き、ビール麦